瓜生氏

日本國畫

西海道
壱岐島
琉球

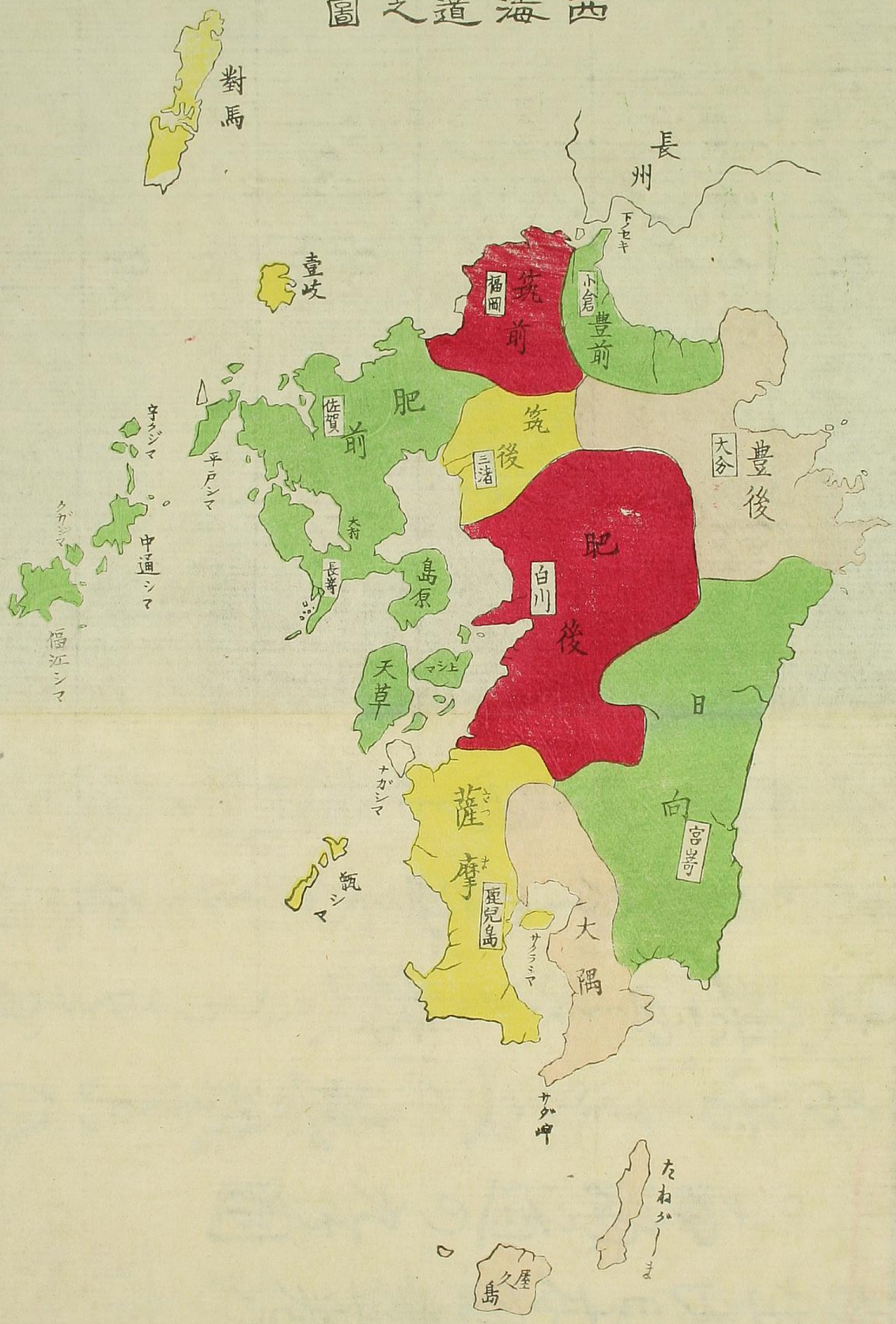
八

止

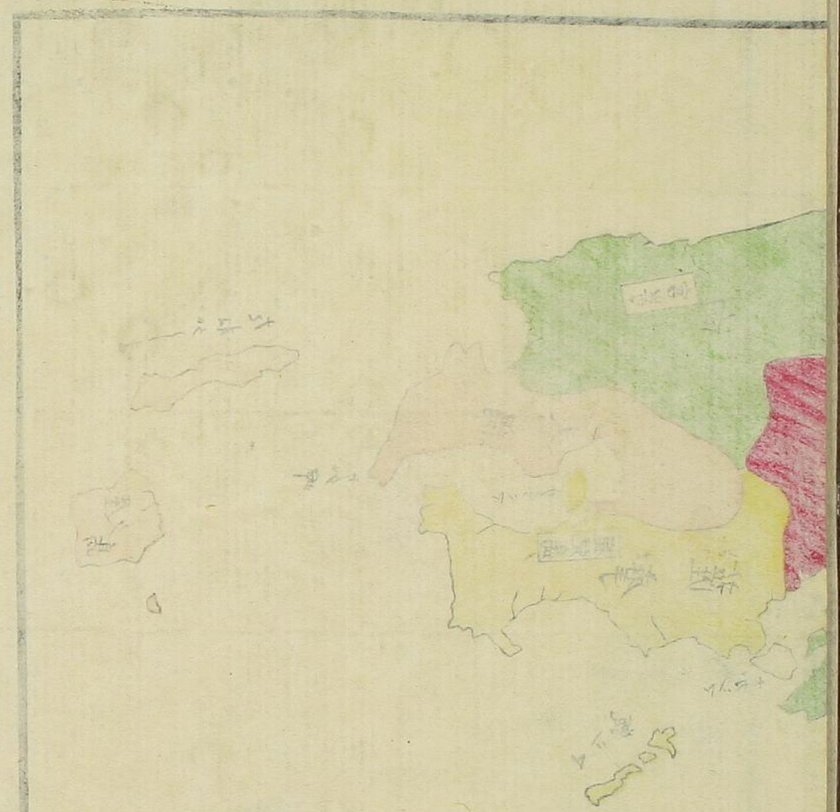
柳田文庫
文庫11
A1846
8

九州ノ一ヲ
島
三吹
島

西海道之圖


對馬
壹岐
長州
下ノセキ
筑前
福岡
小倉
豐前
肥前
佐賀
筑後
三潴
豐後
大分
平戸シマ
宇タシマ
タカシマ
中通シマ
福江シマ
大村
長崎
島原
肥後
白川
天草
上ノシマ
ナガシマ
日向
宮崎
薩摩
鹿兒島
甑シマ
大隅
ナガラミマ
ナガ岬
たねがしま
屋久島

文庫11
A 1846
8



48 9664

人生氏日本國畫巻八

西海道の九ヶ國

白井藏書

さ。昔さきたべて築紫といひ。又鎮西ともいふ。さてかたち日本の西方にて。東い四國と中國とを。迫門を隔てゝ

相望み。南の方い太平海。
西と北とい日本海南ふ向
つて九ヶ國を綴ると合さ
島の必遇巡八百六十里技
の半一を
筑前まて地形を驢馬の

首のごとく耳より面い西
南肥前筑後ふ界して口
頭豊後ふ稍連る東を
豊前雉形ふ八巡み頤喉と
なる北を岬を差出して
髪前頭ふ明なる國中をべて

山多く眼鼻の間い秋月城。
口乃下ゆき白米山。淺茅川
を出て。北へ流れこゝ
支を分け。郷音澤へ注ぎ。
北へ向て長門の國北へ
岬の鐘ヶ崎。頸髮の分き

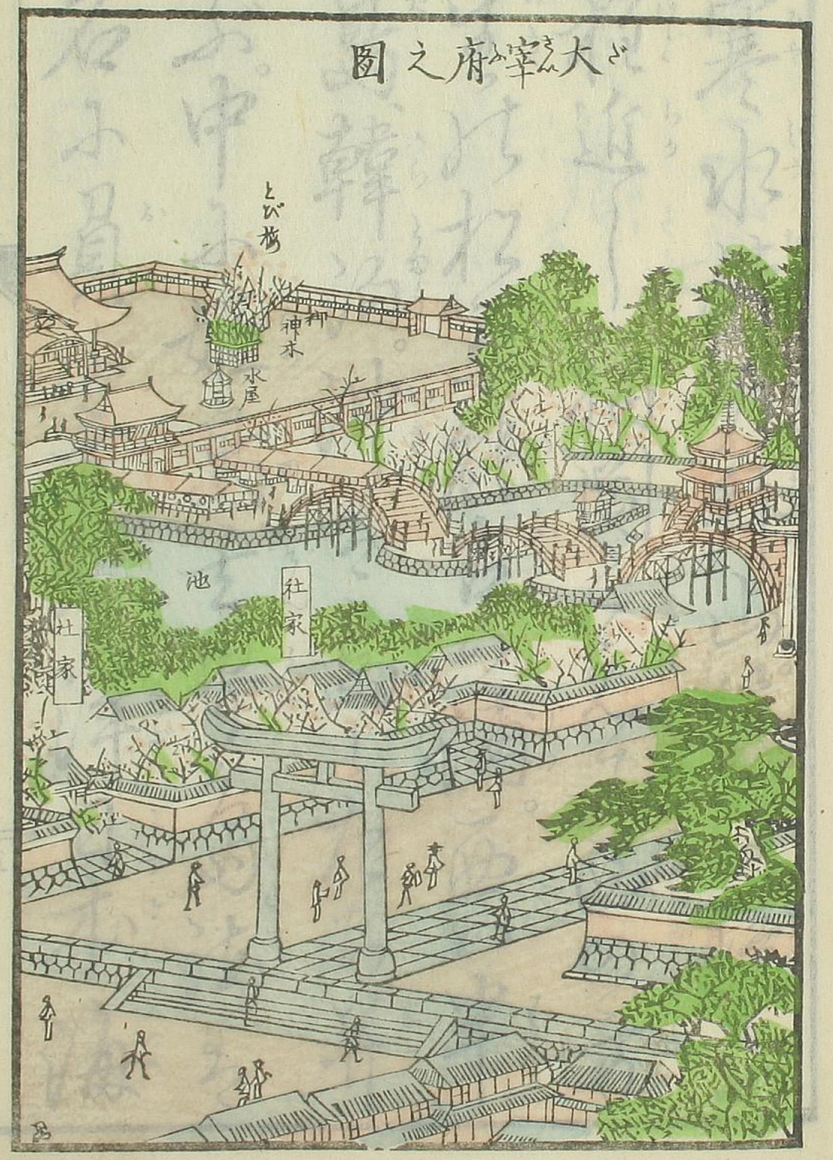
どこ是て地方西へ向き。
諸見川を越て。鶴崎の西
海灣の港を香椎仲哀乃。
崩玉へ古墳へ。眺むる
海へ松濱西南岸へ海
中へ鈎て出でる志賀岬

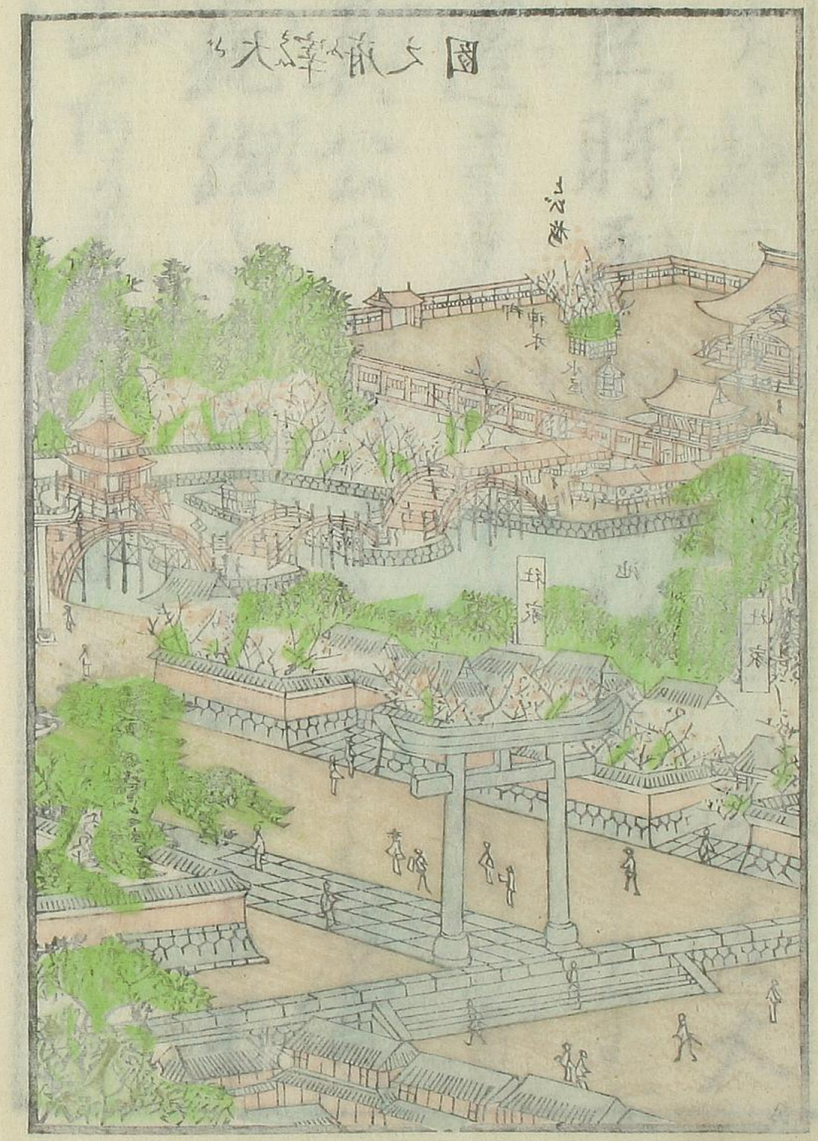
海の中道是そこの。岬乃
南海水乃。四角ふ喰ひこむ北
陽ち。神威ろまき箱崎や。
千代の松原神さびて風
系こと不毎ぬ。南北
角い猶ろとて。全國一國

十五郡。管轄ちまる福岡
乃。縣廳の所ろる府ろて。中い
博多乃町ぢ。ろへ
太宰ち師を置き。九州ニ
島を鎮守して異賊
を防ぎたる。太宰府こ

を拔て東。延喜の昔、左大臣。時平朝臣は讒によりて。遷されて筑紫に菅原乃道真公の旧跡をみて。今も廟貌巍然たり。宰府の北より眺れば山なりて。南小芦城三笠山。

大宰府之圖





寒水峠天拜山筑後境ふ
程近し。福岡こゝて西の方。
生竹松原能古の浦。西い半
島韓泊。沖ち島〜たち并
ぶ。中ふ姫島玄界島。海ち
名ふ負ふ玄界洋。日本海

乃内ぞう〻。人口三十一万餘。
風土ハ温和風俗ハ生得き
やうせつ人物ほう。さて産物
ハ塩ハ鹽。博多絞染ハ博
多織。
東二筑後ハ北の方。斜り

筑前ハ地を掘。地形三
稜形ハ。尖し頭い東乃
方豊後ハ連て南へ。
肥後ハ形ハのこて。西い北
手の事ハを。肥前ハ掘し
南手ハ半い肥前ハ海を

抱く。其の灣底より柳川の
里。矢部川東より来り。三つに
分れて柳川乃。前後より海に
入る。筑後川を九州の第一
番の大河とす。豊後に發
る筑前乃。界より入る紀

前とす。境を繞て海に注ぐ。
其の上流に久留米乃郡。
柳川市御乃正北にして。全く
十郡管轄乃。三潴縣庁の
所在とする。良山を武
内。宿禰を祠る所なり。

久留米の東二里ばかりなり。
東南陽ふ文字山あり。豊
後界ふ熊山や。高井岳ふ
於て外の。ふ山の数も地
〳〵なれ。風土温暖人口も
二十七万七千餘戸風俗も実成

あり。國産鑛ふ茶地ふ。
西海道の第二なり。豊前も
西ふ筑前ふ。鉈角をなし
地を接し。南東も弓形ふ。
張出て豊後ふ界せり。東
北一帶濱續き。北の端も

東北へ向て岬を突出て。岬の尖る門司の関是を九州乃八口なり。中國長門と対し。中い南北兩海の潮の通ふ狹き迫門。下の関ようこてまでなる。海こゝ[illegible]ふ一里ふ

里。門司の浦ふ内裏あり。又北北浦ふ小倉あり。八金生板櫃南河の水。左右を通る海ふ入る。小倉ふ全國八郡を。支配の縣廳あり北なて。小倉縣と中ふなる。

八丁峠より北の西南筑前
國との國界。岬の東より東へ
向き。延て出る小岬の。今
津より南を一湾海湾。東北岸
を奥の藝港。傍に落ちの名
一水乃。其水源を西南乃。

筑前豊後國乃。境より
峠つ高山。港の南より瀬
川。北の水源を高山北。東
南觀山大嶽の山。の水落
つるなり。北は河口中津
まて。中津の市御より南より

なり。天山鹿嶺諸山あり。さて東方は河あり。海を渡きて宇佐の宮。さきたちぶんご豊後乃界なり。土地温かく人口は二十三万五千餘。國産硫黄小倉昌明。

乃木綿織。

第四豊後は北乃方。豊前の弓状形を受け。西一帯は北半は角状張出し筑前と。筑後を御て南手の半は肥後の一隅を受けて

南を日向地方斜に界を
接して東をさして海
濱まで水陸出入多はなは
だ地形一体西縮し東を
開き其形猫の物を投ずる
ごとく西北首をして西南を

之を猫の脊中とし東の
海岸数〻の岬に足をなす又
物なり北方豊前の境より
東へ向ひ圓形の一つを
地方さして出て北を南手
乃海灣の北を岸をして

杵築城西岸日出て府内
を望む。府内は全國八郡を支
配し豊後の大分の縣廳を置
く所なり。こゝより近く別
府まで。家々温泉の湯舟あり
日出て杵築の間あいあき平

島突出て。府内の西小四極
山。又北は海西小烟煙を発小
吐出て鶴見嶽をなるもの
小月さゆる由布嶽錦峠
あり。こゝ際より由布川の
一水起りて東の方府内の

南ハ流れて八ツ。山西遥ニ湯山ニ。猫の頭乃北ハ高ク。
其辺の水集りて。筑乃前
後乃際ハ八ツ。其ハ筑後の大河なる筑後川の
水源なり。山北ハ高き

き。魚市と松本の浦あり。
さて海灣乃南岸ハ東北向
ひろく抽出する。嶮峻の関乃
岬ありて。伊豫の岬と対峙
海上五里ばかりの七里なり。岬乃
腰の両側へ分れて出づる三

又の川を舟岡川とて肥後
界とする豊後の源。南の端より
岩戸川流れて合て一つと
なる。岬の南を臼杵とよび
其南を佐伯とこれ
二市郷の間より小き岬の

数二つ。其より日向の界
すぐ。ぞうこれ二三其岬あり。
又姫ヶ山嶺と云ふ山。日向と
肥後と南北の界を為す
峯えて。二國人口の大概
凡四十六萬六千人。風土

暖氣の地なれども。日向より
はなれて寒き猶多し。産物
水晶、錫、鉛。後来移り植
海藻。

第五肥前。東の方筑後
川を界とし。筑後に接

東北は。筑前の地に界し
て。西南は岬あり。半島
えあり。嶋あり。千態萬
狀、奇怪さまで。全部を
辟言ふまで。孔雀の歩みの
ごとくして。頭を東尾に南

延いまたかつて西を履む。
頭の海に近き地を當る十
一郡の内。東北八郡は毛利に
又松浦の内を支配する。佐
賀縣廳の所在なり。本庄
川より牛津川。要法川佐賀

乃西に行くまで是より東南
島の脊り。當るべき有明
乃沖と名づけて筑後地に。
肥後地に向て海を抱く。佐
賀の西に髫振山。山の西に
松原川。北は西岸い唐津

たるなり。西北海ふ臨む地い數の小岬ありて出て孔雀の尾よりく似たり。北乃二本のその間を秀吉朝鮮征伐の時其陣營名古屋なり。玉島川を唐津より南ふ廣りて

西ふ流つ。川の南を伊萬里なりて前ふ灣あり後へふ淺へふよそ。後藤鹿城の二山あり西ふ高くして最大なり。半島西ふふ伸出て小岬左右ふ孔出し島の見えを出て象どる淺

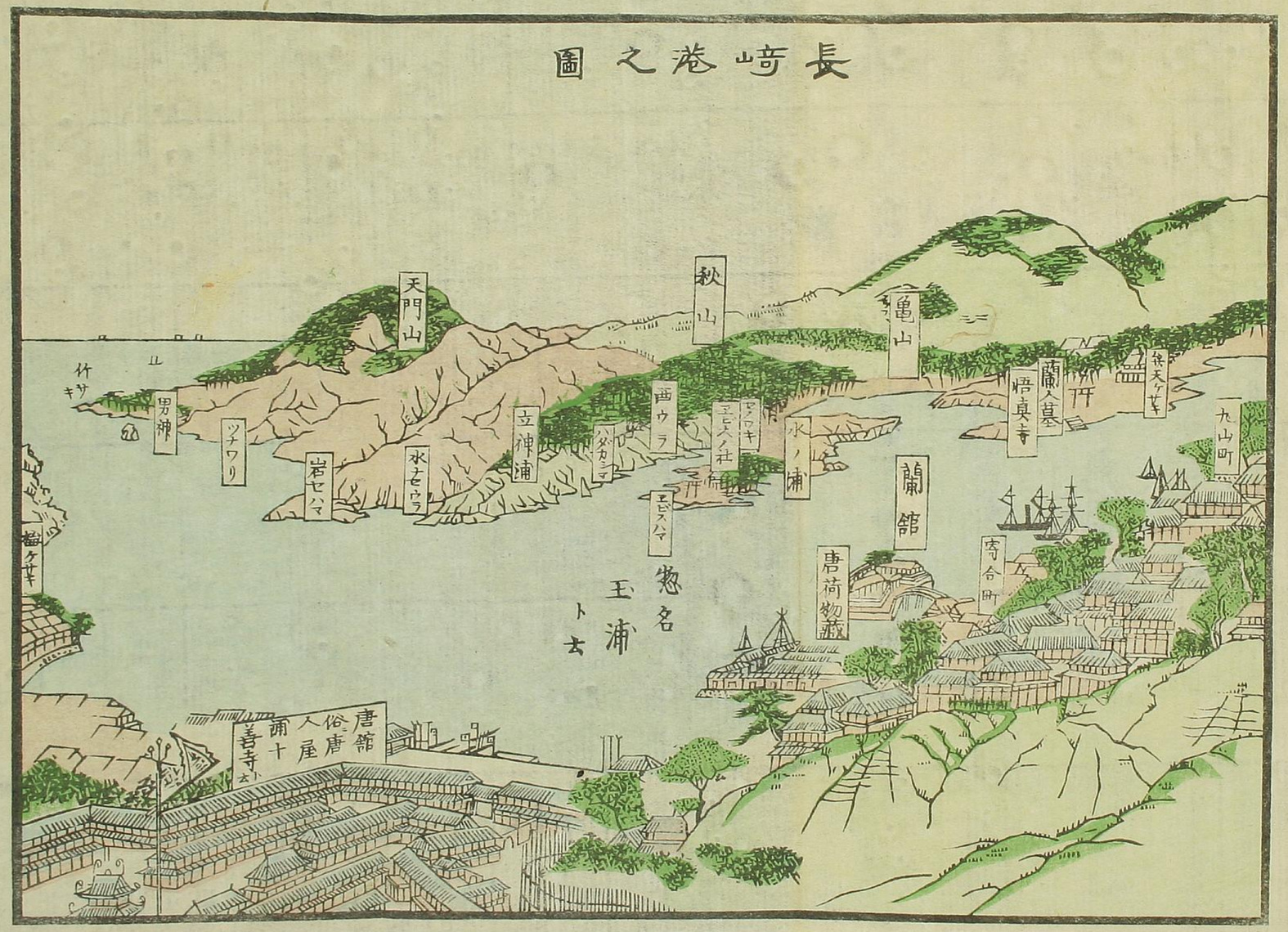
距の東い松浦まで。西へ四里
ぞ平戸嶋間を狹き瀨戸
まで。南ハ九十九島の事
を西南より島五ツ順に並び
て其外端の一ツを福江と名
を称し五ツ併せて五嶋ハ

此二郡乃是外聞こと能
きこと伊萬里の灣こと
初まる。孔雀の身ハ嫉妬
と塚崎二所ハ溫泉湯
き八湯の名乃日ハ知ぬし。
醫の端より大村乃市

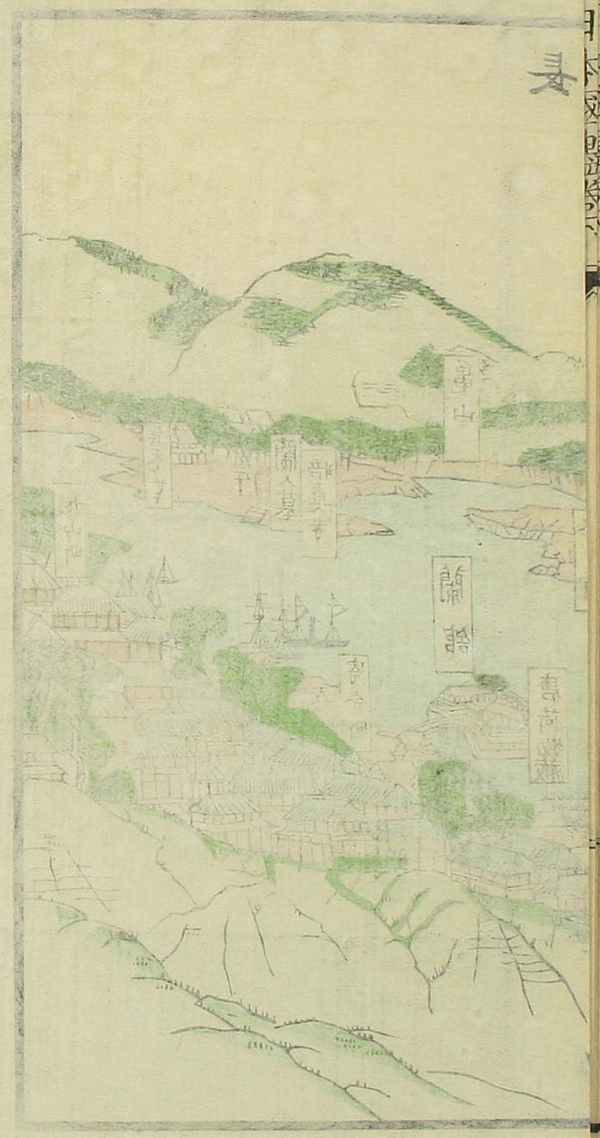
御崎西岸にて。一大灣中
り島行き鯛の浦大村
のひゞ諫早にまさき
内海の一小灣。南灣に至
ゝみ出地狹し。是より岸
島の尾如なるにて尾

先開きて三つとなる。下
なる者を丁字形。其一頭
き中の尾を指して一頭
見ふ向く。是一頭の間
こて。即ち大村の大灣で
下尾と中尾の接する際に。

長くハ四十五の浦。浦輪の
庭より長崎乃港を中ゝ尾
乃本にて。昔慶長年中
より。今ハ繁昌する五十市場。
朝夕ハ夕ハ小兵庫ゝ。船ハ
出入の數多く。町〻きそめて



よる。今ハ後ゆる五ヶ市場。
朝ハ夕ハ夕ハ矣ゆ。船ハ
出入の数多く。町くきもめて



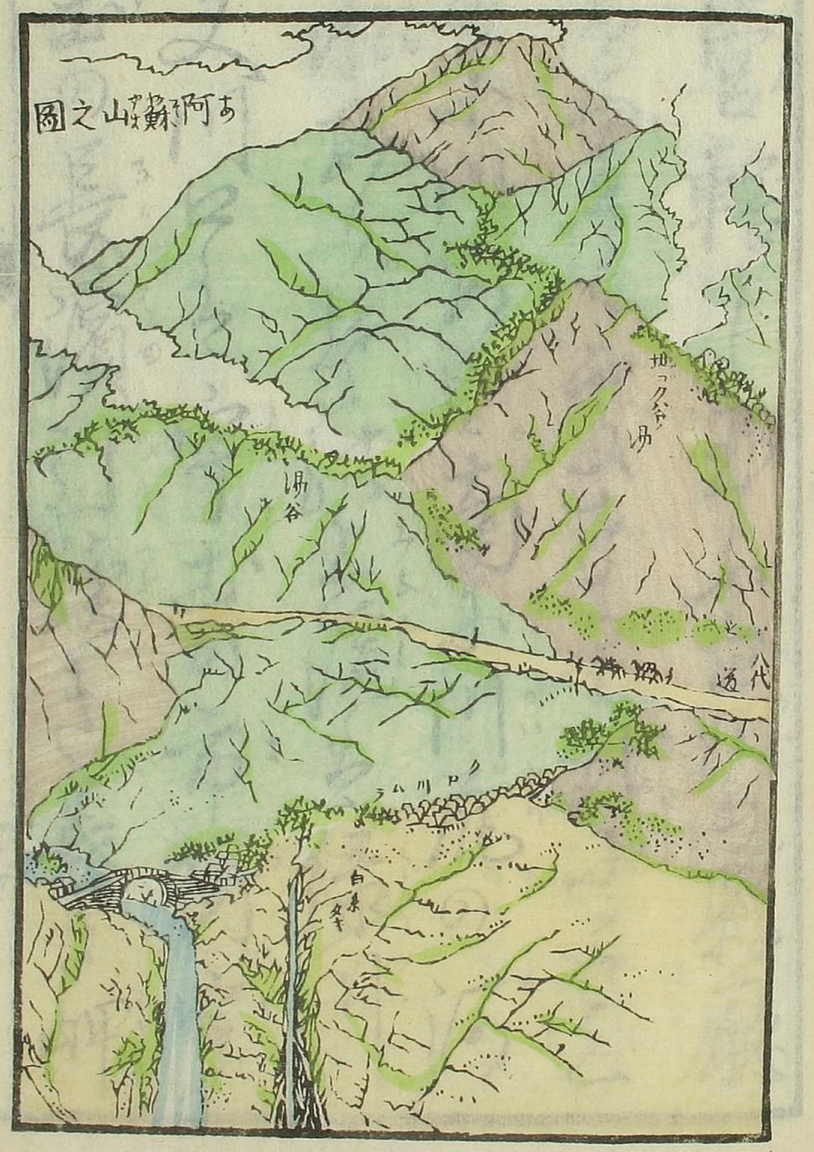
然昌は。弥小當時は肥前
の。西南の三郡と。松浦郡の
五島平戸。夫小遠く海上を。
北小隔てし壱岐對馬。二
島を加へ支配する。長崎縣
廳を立て置る中尾の

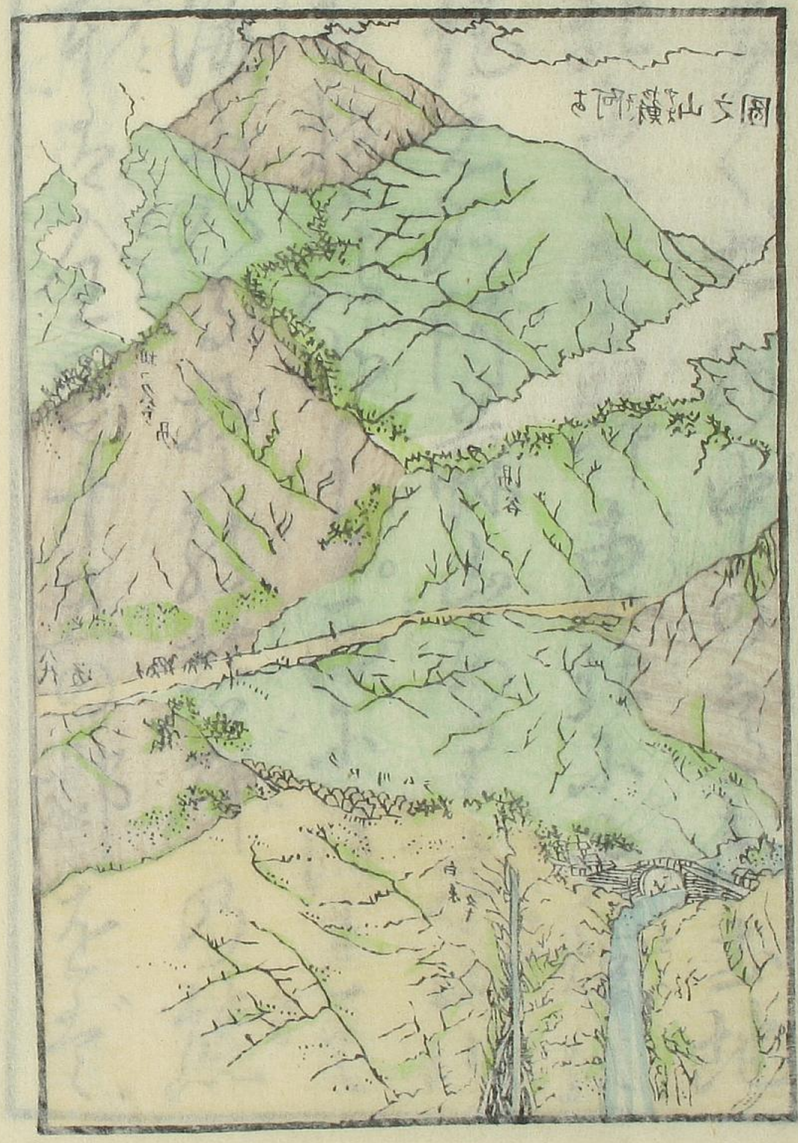
端ハ一ハ岬。横ハ出るハ脇浦
崎。上尾ハ東南の方肥後
天草ハ西ひゝづゝハ迫
門ハ西陽ハ。突出たる
半島ハ。連なる地峡ハ
狭く。高山の中央ハ山あり。

之ハ温泉ハ岳ハ。火畑日
向ハ噴出ハ。其傍ハ温
泉あり。其ハ附近の島多
く。大ハ多ハ布き并べ
数ハ聳ぐハ。海ハ
人口七十一萬餘。風土暖氣

產物は。平戸、五島の鰒獺。
唐津、玄界の乃石炭坑。是
等は諸所に石を得たり。
其他烟草は伊萬里陶
器。雲丹や鯛は鰐ヶ浦。
第六番は肥後の國。北は
筑後ヶ地を接し。南は北
東の一隅は正角をなし
豐後ヶ八つは東は日向の弓
を受け。夫より南へ押出し。
遠ヶ薩摩ヶ界をなす。西は
一面濱續き。國中山岳數

多く。九州の中のうつき土地。北は豊歸東北は央烟れ絶えず阿蘇山あり。赤山川より。西は流れて海に入る。其岸の態も亦全國十五の郡をぞ。





管轄し白川の縣廳を置くところ。北ハ二三の小川あり。南ハ川尻の河水あり。其上流を緑川又川口を宇土の市街宇土の長濱引殖き長き岬

を延出て。尖を三角瀬戸
とす。岬の南い一小灣灣の
南の河口を。西南日向よりを
来る。球磨乃下流ハ八代
川。北ハ北岸い八代市郷。
東ハ種山白山乃。山の東い

五家ハ壮平家の遺民土
地ハ。匿まて別の天地を
なす。今ハ世間通ぜ如し。
南の端り國見山。薩摩
の國とハ界をなす三角瀬
戸ハ西南乃。海ハ三箇の

島たちゝび。多くの
屬して。先たる島を天草
と云。北は肥前の半嶋と。
南薩摩の長嶋に近く向
ふて間の瀬戸。漸戸より内
海まで。この海、秋ごと

某の種子。少を蒔て轉
こと波を樂くうと疑ふ。
肥の不知ふる是ぞうし。
風土暖氣の國にして。人口
六十七萬餘。國產陶器、
馬磯石。烟草、寄柑木綿

後又米穀を得たり。
第七日向を太古神武天皇
を日本に平定し
天下を平定し
玉ひぬ。以前の都は出地より
こそ九州一帯大國を架。
北は豊後より西北に弓を肥

後地に張出し。西は実に
薩摩に觸れ。西南にさゝべて
大隅で。南に伸び矢筈の形を
なす。海を擅にして東方に
一帯長き濱續き。沖を
日向乃洋と云ふ。國中西に

山深く。人跡到らぬ所あり。
東北の隅ハ矢岳あり。西ハ
乃方行膳山。高千穂、祖母
岳、箱の峯。行騰、夏深の
諸山あり。五瀬川を西、肥
後の。東境より豊後。諸山

の間を巡りて二股に成て
海ハ入る。北ハ川尻一ハ湾。
股乃間ハ延岡にして。北ハ祝
子川、北川あり。南ハ門川、
塩屋門。みな湾中へ流れ
落つ。南耳川高城川北の

上流を神門と。西より東へ
来る。良川也。を城川乃南の
方。高鍋市御の南へ。
二瀬川なる。佐出原の市
御を。を。もち川南。北の
真西より流れ。南へ

石崎川。あるを西の尖を
過より。北へ南大隅へ。
流れて。ゆく河内川東へ
を。流れる猿瀬川南大隅へ
へ。東へ。平山川乃水猿
瀬川。を。合て石崎川

乃南よりも東へ流れ海ふ
へる之を大渡川と云猿
瀬と平山の中間ふ霧嶋
山乃峯高く山頂常ふ
火烟出て天を焦さと怪
まる大隅界ふ接葉山猪

鼻越や但吾山大渡以南
乃川々ふ大渡ふ成て唐渡と
其他二三の川あ成て出ん
豊國東南乃隅ふ南を
る土肥岬是よりも海岸
南向大隅界ふ接近て

廣渡川の上流を開きて
市御を飯肥といひ石崎
川乃河南宮崎郡の宮
崎を神武天皇皇居地
北大渡川の北岸の上別府
村を全國の五郡を管轄

宮崎縣廳を
ふあり。人口二十三萬餘。
物産竹、漆、松、木
諸材、五倍子、茶。
第八番を大隅を東を
日向西薩摩二つの国

狹まりて北より南へ細長く。
南の端より二股に分れて
二つの岬出づ。形ち蛞蝓に
似たり只西の方土
鉄者て薩摩と對し灣
となる。抜けば灣中より大

島あり。之を櫻島と云ふ。
島より御岳の根あり地
方の山を西八幡日當山
乃諸山なり。山の麓を通
り過ぎ灣に入る廣
瀬川。河内川より日向へ出る。

北乃北端を廻き薩摩の海へ流れ入る。右乃角より北の頭乃佐多の岬小舟屋乃方左乃方角頭より出崎と云る岬より南の方海入り。

二つの大嶋并び立つ。東の方より種子嶋。北より西方屋久嶋。北より西方屋久の西南小嶋あり。永良部嶋と云。国中八郡管轄す。隣国薩摩乃

鹿児嶋縣 北は大隅の人口まで十一萬四千余 産物屋久杉 檜林 茅 九薩摩に西は海 北は肥後 東は隣 東北は向り 稍觸て東は北の事

分 乃地 大隅乃地 脊合せ 南は東は大隅と灣を隔てゝ 南方地勢稍廣く三面海を繞らして 水陸出入すること此國南北長くして 横あき

蝦のごとくなるを。頭を北に尾を南國中山のつる川
少く。北に紫尾山。北の面。
大隅乃國を歷て薩に。
流れ川の水流を通りて
過ぎて海へ入る。北の河口

を久見岬。坐岬より南手
乃海濱出て又窪み窪と
しるを湊して湊乃東
北薩摩山郡山に北の東
湊乃南を地の勢沼形に
西に押廻て半島ありて

西北ふ向て出たる生鼻い
野間乃岬や野間が鼻南ふ
一二の灣を過ぎ南の先を
坊が崎是よりも地形一轉し
海灣あり南向灣の東
岸海門嶽遠く望めば

駿河なる富士の高根より
仰ぐるよりも薩摩富士とも
申すべき山の南なる海門
崎是よりも地勢又轉じ
東南向て大隅と互り
薩摩迫門をなす八丁ム

四の大灣乃。西の西岸
を播磨と対。さかいち
廉里郡縣廳を。設もうす
薩州五十三郡。大隅一國八
郡を管轄。ものなり。
久見岬の西北方三つの路

を甑島西北隅の長路をもて
方小近く寄傍ふて。肥後
天草小程近く海門長崎
南の方海小ふる竹島硫黄島
其外小島五つ六つ。於是
よりて遥の南手小。西南へ向け

順列ふ并びて立つる七島
なる。先づ琉球乃
北北大海を隔てゝ并ぶ。一國中
の人口凡そ二十三萬八千餘。
産物泡盛、牧馬、烟草、紅
花ふ、備陶器。上布、芭蕉布、

硫黄、樟腦
二嶋とする
九州の西北ふある。大海中
の島國にして共ふ長崎縣
廳乃管轄中ふ屬せり。
其地方一を支とする肥

前の北は海中ふ十餘里
隔て〻爲の國圍廻三十五
里あり山ふまて水細
く岬四方より突出て東ま
向ふ海灣の浪は中まで
深入る山を魚釣の山

まつ北ふ向へる海灣の中
ま大きなる勝本まて西
寺院數人口二萬五千
余産物綿布雲母鯨
對馬ま壱岐と朝鮮の中
間り高麗孤島共ふ距ること

四十八里。地形南北ハ長く
して。四面岬乃數多く蜈蚣
乃歩む形なる山多くして
田少く。北ハ御嶽の高山あ
り。北ハ東南乃海濱ハ日
暮山り鏡山二山の後ハ

大星山。南の山ゝ折越えて。
こゝハ大なる海あり。西の
方より流れ出る川乃。北ハ口
の竹數乃浦ハ。まゝ浅
茅乃浦。是より一條乃路
ハ。つゞきて。潮こちくまゞ東岸

船にて往来自在なり。
まもなく國をぞ二分して
南を上の嶋とつひ北を下
の嶋とぞ。上の周廻五十里
余。下は一百三十五里。路よ
つて南の方濱を沿へぞ

厳原。當國中の一都會。そ
の西南ふ矢立山。関ふ崎つ
有明山。是まき本ふの南端。
山ふ登りて乾の方望めぞ
朝鮮見ゆる。人口一万
三千余。風土寒氷雪多く。

其の産物たる人參や硫
丹雄黃赤緋石たるも
琉球たる
九州薩摩の鹿兒嶋より
百十餘里隔たりて北
乃七島乃南より西南へ

この連綿と臺灣嶋の
東まで四十余乃嶋布き
列なり位置を分て三つと
し中南北三部とす。
中部の内沖繩を即ち
琉球乃本嶋にして地の良

まて坤へ。うけて長く乾
くわ巽の方へ中狹く流
球諸島乃中央まて嶋を
分て中山〳〵山南山北の三
者とを海濱岬群出し。
西う一大半嶋あり。其北

灣を運天灣。港乃東岸
岬あり。其北ゝ大灣と
なる。西南乃隅を那覇
港。南乃鼻を真玉武崎。
北の端を邊戸崎や川小
くゝて山卑く其大なる

山南ハ。八頭岳あり。中山ハ
亀山。雑嶽。浦添山。小菊
ハ。恩納嶽。佳楚。名護
河ハ。富蔵川。地氣温熱
ハ。風強く。よりて家居
高卑し。王居ハ中山

首里ハ。由て中山王と
いふ。風俗順良なり。
男女とも髪を結ひ之を
簪をさしかざす。衣服飲
食、文字、言語。我と大抵同
たりとて。南部諸嶋い中部

よりて。遠く西南に隔て
ありて。東西に分れ列なり。
其大なるは宮古嶋石垣
島より八重山臺灣にまで
三十里。北部に屋久島
支配まで。其大なるは

大嶋で。次に德島加計留
麻じまの三郡合せて四橫
ゝ四百六十六里。北部を
除き中南は。其の人口
十六萬五千九百三十人。
產物砂糖、生絲、絹、布、

木綿ふ絹ふ絹ふ漆器泥盛芭
蕉布や。畳乃表塩の孫共
し支國の上古を永く天
孫氏の世をるまを文治
二年乃年とのや。權臣共
為ふ滅さ。當時鎮西八

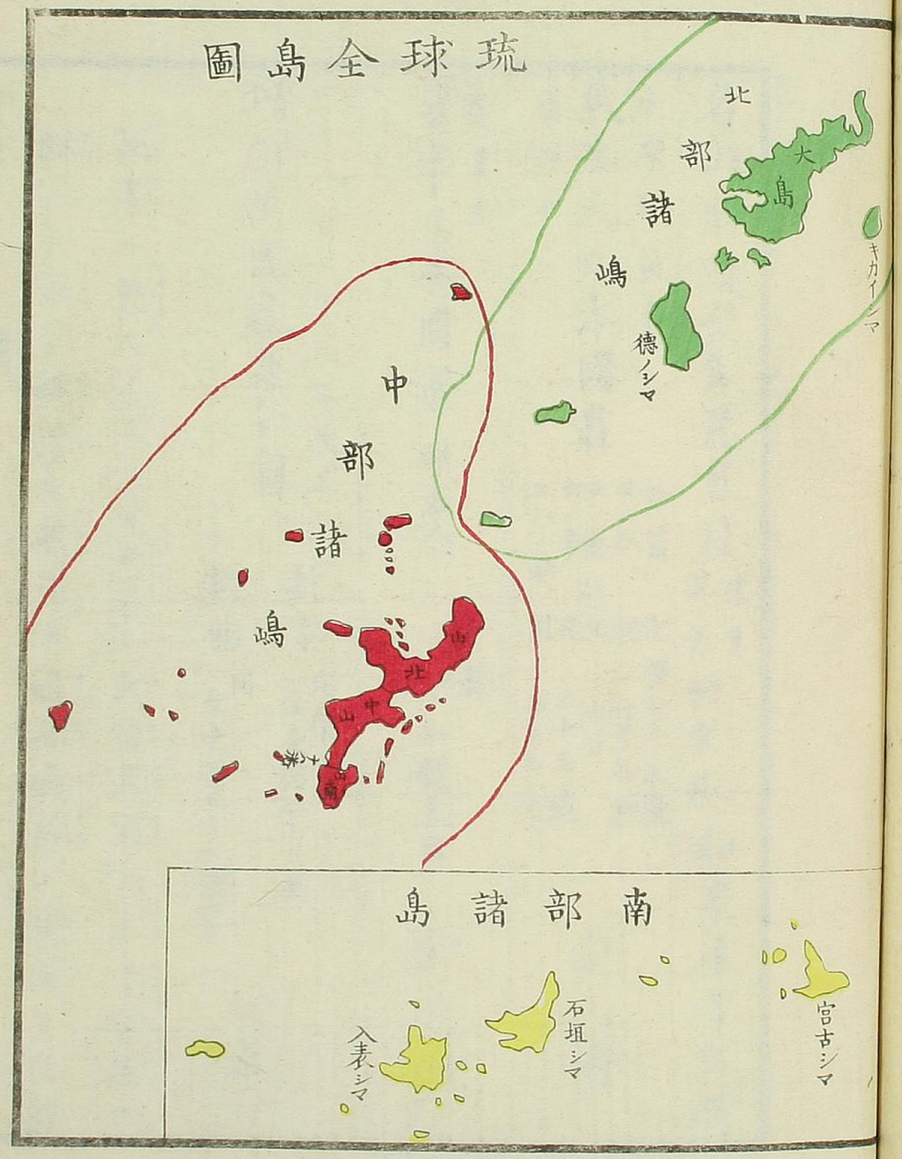
郎の源為朝一子あるを義
兵を擧て位ふ即き之を
舜天王といふ。其後治
孔一方ならず。王姓をもく
改まるを數世を越えて国
人等舜天王乃後裔ある。

尚圓を立て王となす。夫
より血統連綿し。當代尚
泰ふ至るまで。七代なり。
三十又八代近須
朝廷恩詔を降して藩
王ふ冊封し之を華族乃

列ふ。人を吏員を遣はして
聖世乃至仁乃澤を邊壤
乃民まで及ぼしめ給ひて
より。四海波風穏なり。
枝も鳴さず君の代の榮
行くさ白紙ちんてさき。

濱乃真砂乃尽くるまで。
幾万世も萬世とて祈ひ
こゝろを収めぬ。

仏生民日本國畫大尾



名山閣新發售畧書目　東京芝太神宮前　和泉屋吉兵衛

小學校讀本　初篇　定價七十五錢
瓜生氏日本國盡　四ノ巻　同　二十五錢
菱潭書　五ノ巻　同　十目
六ノ巻　同　二十五錢
七八ノ巻　同　二十五匁　全八冊

菱潭書
昌字日本國盡　郡名入　定價　卜二錢五厘　全一冊

一千八百七十三年改正
增訂萬國航海全圖　折本　定價　金壹圓二十五錢
掛物　同　金壹圓三十七錢五厘　一本

此書ハ英人イヨンビルチー氏諸名家ノ正説實驗ヲ輯メテ以テ鏤行ス然シテ近世地球ノ圖續テ上梓

レ各々精密ヲ競フト雖ドモ海礁砂洲粟粒ノ島嶼ニ至リテハ未タ如此キ詳ナル者ヲ見ス且航海者ノ年月時日ヲ記シ且ウヘ山脈大山ノ高低大河ノ長短各國人民ノ種類各國ノ幅員人民ノ多寡有名都府并ニ港ノ寫真図ヲ摸シ海程ノ里數ニ及ヒ萬國ノ旗章ニ至ル迄輯メテ大成全備セリ實ニ方今必要ノ一奇図ト謂ツ可シ

青木輔清譯

萬國地理小學

チアンブル氏原撰

定價 三十錢　全三冊

此書ハ地球圓體の説より海陸の名義土地の廣狹人民の多少各國の風俗都府の形勢物産の多寡等ヨリ至るまて漏さすまて輯め且平仮名まて所々ハ繪図を加へたる書あれい童蒙婦女子と雖も世界萬國の概略を了解し易き善本なり

深爾内基纂輯

輿地小學

前編 亜細亜 亞弗利加 大洋洲 南大洲　三冊

後編 歐羅巴 南北亜墨利加　四冊

全七冊

此書ハ卷首ニ地球ノ形狀及ヒ自轉ノ説ヲ解キ次ニ經度緯度時刻ノ差ヒ五帶ノ區別地道四季ノ變更ヲ示シ而シテ世界ノ大別海陸ノ名義ニ及ヒ世界大山ノ高低大河ノ長短各國人種ノ區別言語文

字ノ數種教法ノ數派開化ノ等級各國ノ幅員人口ノ多寡各國ノ政體土地ノ形勢名所舊跡都府ノ景況物産增殖歷史ノ大意等ニ至ルヤテ遺漏ナク輯メテ以テ大成全備セリ故ニ居ナカラシテ全世界ヲ觀ル事掌ヲ照スガ如キ一大珍書ト謂ベシ

仮名古事記　定價金一圓十二錢五厘　全三冊

校刻日本外史　薄葉摺同　定價金貳圓三十七錢五厘　全十二冊

大槻東陽著

訓蒙日本外史　一編五冊ツヽ定價五十目

此書ハ日本外史ヲ和譯シ專ラ原文ヲ讀ム助ケトナリ其意會シカタキ語ニハ左傍ニ譯言ヲ施シ尚盡ササル者ハ註釋ヲ狹ミ一ツモ疑義ナカラシム實ニ原文ヲ讀ム南針ト謂可シ

沖正修著

訓蒙皇國史畧　神代ヨリ當今明治マデ　全十五冊

沖正修著

支那國史畧　繪入　定價金一歩三朱　全三冊

此書ハ太古伏義神農氏ヨリ當今同治帝ニ至ルマテ數千年間ノ歷史ノ概略ニメ旦近年阿片ノ爭亂

ヨリ長髪賊所々暴行ノ始末ヲ記セリ

米政撮要

定價
金五十五目

全五冊

此書ハ一二ノ政治書ニ原ツキ之ヲ本國ノ法律家ニ質問スル處ト屢三廳諸局諸察ニ至リ親シク官員ニ接シ聞見スル處トヲ彼是照準シ隨テ録シ隨テ輯ムル者ニテ徒ニ原書ヲ飜譯スルニ非スシテ專ラ其要旨ヲ撮リ之ヲ我言語ニ譯シタル書ニテ方今一大ノ宝書ト謂可シ

瓜生三寅譯

合衆國政治小學

初篇三冊
定價四十目

全八冊

瓜生三寅撰

貨幣 重 中外比較考政正

定價十目

全一冊

伊東祐愛譯

西洋免許法

全八冊

幾何學捷徑

定價金壹分一朱　全一冊

醫語類聚

奥山虎章譯

並紙一圓五十錢
上紙一圓六十二錢五厘　全一冊

此書ハ合衆國ドングリソン氏醫用字書ニ基キ日用欠可カラサル羅甸希臘等ノ語ヲ撰ミ尚自餘ノ書中ヨリ若干ノ雅言ヲ集メシ者ニシテ巻末ニ筋骨動脈化學元素ニ及ヒ度量衡等ノ表ヲ詳ニ掲示スルヲ以テ寔ニ醫津ノ宝筏杏林ノ蘭桂ト謂ふ

瓜生先生撰

手習草紙

小學校習字本　初二三　十目　十目　十二錢五厘　附録　金一朱

瓜生三寅譯

啟蒙知恵之環

小學校讀本　一　定價三十錢　全三冊

菱潭書

皇國官名誌

小學校讀本　定價十目　全一冊

神名垣魯文和解

朝捷徑子寶習字章

菱潭書

初篇　世界國名入　定價三十錢　全一冊
二篇　日本國名入　全二冊
三篇　日本史畧　全二冊

此書ハ目今小學諸校ニ於テ初學階梯ノ第一課ヨリ備用せる單語篇の俗解ヨリして天地萬物の名稱人

倫文體總て理義徑蹊訓蒙を專務とし世の稚童の為め簡易通曉ならしめんを欲し例の五七五の長歌体の章句を綴らし且い習字摸本の書体の倣ひ多き幼童樞要の書あり

定價廿五錢　全二冊

沖正修著

慈父の教

此書い五常五倫の道ならして日々の行ひに至るまて和らけ且父の一々例を擧けて之を示し以て青年の児童を善道へ導くの善本なり

深間内基譯

啟蒙脩身録

定價　二十五目　全二冊

此書い亞國のサアゼント氏ノ著せる教訓書第三リードルを抄譯せしものにて其中我に無益のもの省き勉めて有益のものを撰擇し童蒙婦女子に至るまて解し易からんを欲し多く俗語を用ひたまた漢語あるも左傍に訓譯しなる書にて慈父たらん人い必ず其子弟に一讀せしむへき善書あり

菱潭書

童蒙脩身帖

定價二十目　全二冊

此書ハ童蒙初學の人をして身を脩める事を教へられんとする書にて且習字讀本共に用いらるゝ樣上梓しかれい小學の門に入る小兒必ず講習せしむ可き書あり

頭書布告字辨　小川監著　美澤書

日用文附諸証文

全二冊

此書ハ從来の用文章を一變し繁飾を省き勉めて簡便を主とし所々漢語を用ゆると雖左傍に訓譯を施し且へ頭書に布告字辨と題し御布告中の漢語を輯めイロハ分に一々訓譯を附し巻末に當今改正しなる諸証文を加へ且證書の規則心得方及び印紙貼用心得方等に至るまで漏なくふく輯なる書にて人なる者須臾も座右に欠く可からざる珍書あり

定價
金一圓廿五錢

佐藤椿園述

農政本論

全八冊

佐藤椿園筆記

培養秘録

同遺補　同　同
十二錢五厘　四十目

全四冊

佐藤信景著

土性辨

同五十錢

全三冊

佐藤椿園元海述

草木六部耕種法

前篇八冊　定價金一圓七十五錢
後篇七冊　全十五冊

此書ハ凡ヘテ草木ノ培養方ニ由テ根幹皮葉花實ノ六部各々其要スル所ヲ充分ニ取得ンカ為ノ一其土性ニ因テ糞培ヲ異ニシ瘠土ヲ轉シテ沃地ト為シ或ハ寒ヲ禦テ温ヲ回ラシ其收獲ノ利益ヲ夥多ナラシム奇方妙術ヲ佐藤氏五世相傳實地ノ經驗ヲ以テ研究セラレシ確説ヲ懇ニ記載シタル者ナレハ方今開明ノ際農業ニ從事スル輩ハ勿論苟クモ經世有用ノ道ニ志ス人ハ必ス熟讀セスンバ有ヘカラサル一大珍書ナリ

定價十目　全一冊

蠶桑圖解

同金貳朱　全一冊

製茶圖解

瓜生三寅著　第三大區三ノ小區四番甲一番地

明治五年壬申十月新雕

東京芝大神宮前

名山閣　和泉屋吉兵衛

010190534249